

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470200544		
法人名	医療法人 社団 仁明会		
事業所名	グループホーム青葉		
所在地	宮城県石巻市門脇字一番谷地57番地の19		
自己評価作成日	平成31年 1月 28日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/">http://www.kaijokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 31 年 2 月 22 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム青葉は経営母体が医療法人で、老人保健施設併設でもある為、日常の健康管理及び体調の急変の際には迅速に対応できるように病院・老人保健施設との連携を確保しています。また、できるだけ自立して生活していただくように、できる範囲でご自分で行なっていただくように支援しており、「年を重ねるごとに自分らしく、笑顔を絶やさず楽しく健康的に暮らしたい」をスローガンに掲げ、入居者の皆様がゆったり穏やかに、一人一人のペースで過ごせるように取り組んでいます。職員は楽しみと親しみを持って入居者の皆様と関っており、皆で明るく笑顔と笑い声の絶えない日々を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは1ユニットで、石巻市の三陸自動車道石巻港ICの南東部の静かな住宅街にあり、法人の老人保健施設と青葉中学校が隣接している。ホームの食堂は広々としており、入居者の自由な時間を多く設け生活を楽しんでいる。窓から通学する生徒の姿や声、グラウンドでの活動が見え、元気もらっている。老人保健施設とは、緊急時に医療面での協力があり、迅速に対応してもらえる。避難場所にもなっており、入居者家族にとって安心感がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム青葉 )「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営方針及び基本理念を基に年間目標を掲げ、目標達成に取り組んでいる。	「楽しく張り生きがいのある毎日」等の年間目標のもと「年を重ねるごとに自分らしく、楽しく健康的に」等のスローガンを職員間で共有している。入居者との生活を楽しみ、ゆったりした支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。地域の行事連絡を町内会長さんや民生委員さんをお願いしており、老人クラブと保育所との交流会に参加させて頂いたり、中学校との交流等がある。	ホームに踊りのボランティアが来る。老健にボランティアの歌やハーモニカ等の演奏を見物に行く。中学校から運動会や文化祭に招待され出掛ける。法人の託児所の園児が、ハロウィンや雛祭り等に仮装して来る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験学習を受けれたり、行事を通じて地域の方々と関り合う機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況等の報告を行い、各議題に沿って意見やアドバイスを頂きサービスの向上に努めている。	メンバーは町内会長、民生委員、市職員、家族、入居者、老健事務長である。民生委員の紹介で老人クラブと保育園の交流会に参加できた。町内の避難訓練で、避難場所と避難所を間違わないよう説明があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回の運営推進会議に市職員に参加して頂いている。不明な点等は相談し助言を頂いている。市の地域密着型サービス運営委員として委員会に出席している。	介護報酬について相談する。市職員から「看取りに関する家族からの事前確認」のアドバイスがあり実施している。市の福祉施策の検討等の運営会議に参加している。「他職種連携」等の研修案内があり出席した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠せず、行動の制限を行わないよう配慮している。2か月に1回「身体拘束を行わない為の適正化委員会」を開催し、ホーム内の勉強会や研修参加にて身体拘束への認識を深める努力を行なっている。	身体拘束について言葉使いの勉強会を実施している。「ちょっと待つて」「座って下さい」等の指示的でなく「～しているので待っていただけますか」等、スピーチロックにならないよう留意している。市からの「アンガーマネジメント」の出張講座を受講する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行なって虐待について学習している。スピーチロックのように、普段の何気ない一言でも虐待や身体拘束にもなりうることを理解し、穏やかな対応が出来るよう励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて理解を深めている。必要があれば支援するよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書を用いて、疑問点を伺いながら納得できるよう説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や電話連絡の時に話を伺っている。利用者に不満等があっても職員へは伝えにくい場合、家族に頼んで聞き出して頂くようにしている。また、相談・苦情等の相談窓口として第三者委員をお願いしている。	毎月に利用料支払いに来た時等、家族から聞き出すようにしている。「病気を本人に伝えたくないで欲しい」「安全第一で車椅子にして、歩かせないで欲しい」等の要望があり、入居者の意見を尊重し家族と相談し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや職員会議時に、その他随時意見や提案を聞き、運営に活かしている。また、運営会議や安全衛生委員会等に管理者が出席し、意見や提案を代表者に伝えやすい環境にある。	夜勤者の多忙な業務の一部を日勤者の業務に振り替えた。ベッドの下の清掃・消毒を追加実施している。若い職員が「調理をうまくやりたい」等、入居者への思いやりに関する意見が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすいようにシフト表は各自の希望を出来る限り反映し、働きやすい職場環境づくりに努めている。また、法人独自の考課制度にて実績や成果の反映を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会に参加し、事業所独自の勉強会を開催している。また、個人の能力に沿った指導を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修先で同業者との交流や情報交換の機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	よく話を伺い、安心して過ごして頂けるよう寄り添った対応を心掛けている。遠慮されている時は、家族に要望等を伺って頂くようお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の時から、不安や悩み・要望等何でも話し合える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係者・家族・本人からよく話を伺い、必要に甥他対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事や活動を行い、教えていただくこともあり、暮らしを共にする者同士の関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態を報告し、よく話し合い、職員の対応では困難な場合は家族の協力を得たりと、共に本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・親戚等は頻りに面会に訪れる方も多く、友人が面会に訪れた時は、いつでも遊びに来て下さるよう呼びかけている。外出や外泊にて家族や親戚等と触れ合っている方もいる。	正月や盆に自宅に出掛けたり、親類の通夜等に行く。車椅子の人もイオンでの外食が楽しみになっている。面会に訪れる家族等を職員皆が明るく迎え、お茶や椅子を用意し温かく対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に配慮しながらテーブルの席を考慮し、孤立せず良好な関係を築いていけるよう職員が間に入り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所しても再度申込み頂き、再度入所して頂いたり、ケアマネや相談員等と連携し、他施設を紹介する等、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自由に過ごせる時間が多く、各々が思い思いに過ごしている。意向や希望を伺い、出来る限りそれに沿えるよう努めている。	ほとんどの人が意思表示できる。「食器洗いたくない」「テレビの音が大きすぎる」「周りを静かにさせよ」等、それぞれの声に対応している。帰宅願望の時は、一緒に散歩したり家族に面会に来てもらったりする。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前にバックグラウンドについて十分伺い、家族や知人等の面会時や毎日の本人との会話の中で把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一般状態の観察・申し送り・各記録類の確認等にて把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	最低でも月に一回また必要時にカンファレンス・モニタリングを行なっている。本人・家族の意向をふまえた介護計画を作成している。	皆でカンファレンスをして、管理者がモニタリングをまとめる。出来ることをやらせて欲しいや穏やかに過ごして欲しいなど家族の要望を取り入れている。退院後の食事形態や段階的歩行をプランに入れた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その都度記録し、毎日の申し送りや職員会議・カンファレンス等にて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族等の状況や要望に沿った柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の体験学習を受け入れたり、消防署立会いのもと防災訓練を行なっている。近隣の店で買い物や外食したり出前をとったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関への受診となり、病院側からの理解と協力も得られている。それ以外の病院については、家族・本人の意向に沿った病院を受診できるよう配慮している。	老健から健康チェックで、医師が毎月、看護師が毎週訪問している。皮膚科や眼科、歯科等への通院に職員が付き添い、必要な場合は家族も同伴してもらう。必要に応じ情報提供用の「ケースファイル」を持参する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の医師と看護師により健康チェックや相談・指導をして頂いており、緊急時にも迅速な協力を得られる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者・家族との情報交換・連携を密に行い、入退院がスムーズに行われ、退院後も出来る限りホームに戻れるよう努めている。入院中は定期的に面会し、洗濯の支援も行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針を定め、家族に説明し同意を得て意向を伺っている。	「重度化した場合の対応に関わる指針」に「看取りに関する事前確認」を加え、家族の同意を得ている。重度化した場合、ホームでの医療行為等の限度があり、法人の病院に入院となる。看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修を受講し、勉強会に取り入れマニュアルの見直しを行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の施設・保育所と連携した防災訓練の他、地震・津波想定 of 自主訓練を実施し、町内の防災訓練にも職員と利用者が参加している。	夜間想定も含め年2回実施している。災害発生時は夜間において老健から6～7名の応援が得られる。出入口が向き合っている老健が避難場所となっている。町内会長を通じて住民の参加を働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者からの目を意識し、さりげない声かけ・対応を心掛けている。プライバシー保護・接遇の向上のための研修にて意識の向上に努めている。	「さん付け」で呼んでいるが「大将」で喜ぶ人もいる。失禁した時は、周囲に分からない様に、声をひそめて身振りで誘導する。接遇マニュアルも備えて「～して頂けませんか」のように言葉使いに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度意向を伺い対応している。その人によっては、選択肢を用いたりその人の立場になって考え対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その都度やりたい事等を伺っている。ゆっくり起きてきたい方や居室での生活を大事にしたい方、気の合った方と関り合いたい方等、それぞれのペースで自由に過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧する方には希望の品を準備したり、馴染みの美容室へ通ったりと、その人の意向に沿えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理中の音や匂いで食事への楽しみを見出している。その人の能力に応じて共に準備や片付けを行なっている。職員が利用者の嗜好や季節感のあるメニューを作成している。	メニューを職員が作り、食材を入居者と買いに行く。生ものや甘い物が好きである。誕生会等で寿司を作ったり出前を取り、刺身を買に行くこともある。職員も一緒に食事をし、会話が弾んで和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士にバランスやカロリーをチェックして頂いている。それぞれの状態や能力に応じた食事形態を心掛け、チェック表で摂取量や体重の増減を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その都度声かけや介助し、清潔を保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。チェック表を用いて排泄パターンの把握に努め、それに合ったトイレ誘導を支援している。	「お昼前ですからトイレの方はどうぞ」等皆に促す。残った人に「散歩しましょう」とさりげなく誘導する。ソワソワする等の排泄のサインを見逃さないよう見守る。膀胱炎で失禁の多い方の、清潔の保持に留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェック表にて把握し、運動の他、食物繊維や乳製品を多く含む食事を提供。また、下剤の調整を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否が見られる方へは、機会を改めたり職員を替え対応している。最初に入りたい方、最後に入りたい方等、希望に沿えるよう配慮している。	週2～3回入浴している。脱衣所のエアコンで、浴室のタイルも温まるようにしている。浴室で昔話をしたり、歌ったりしている。「自宅で入るから」と入浴拒否の強い人には、「体重を測りますから」等誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人のペース、好む場所で自由に休息できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表をファイリングし、職員一人ひとりが薬の目的・副作用・用法・用量について正確に把握している。誤薬のないよう準備・確認・投薬時の確認と三段階の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や好みを活かして、役割や楽しみ事、気分転換等をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症流行時期以外は、毎月気晴らし観光で皆で出かけ、市内観光や買い物・外食を支援している。また、家族の協力を得、外出や外泊をされる方もいる。	花見や買い物、外食に毎月全員で出掛ける。日頃からホーム周辺の駐車場等を散歩したり、託児所に寄る。ウッドデッキで外気浴をすることもある。外出を渋る時には「皆でご飯を食べに行きましょう」と誘う。お手玉用の材料の買い物等、個別外出に対応する。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金とは別に、ご自分でお金を持っている方がおり、お孫さんにお小遣いをあげたり買い物をしたりと自由にお金を使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎをしたり、携帯電話を所持し自由に電話されている方もいる。手紙のやり取りを希望される場合は、買い物や投函等の支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感を出せるよう、家庭的な品々の設置や季節に応じた装飾・花類に利用者と一緒に取り組んでいる。温湿度や匂い・光加減等、安心してすごせるよう配慮している。	小上がりの畳に御雛様を飾り、ポインセチアの花がある。入居者が書いた習字を飾り、保育園や中学生の礼文を貼り出している。窓から中学生の通学や運動場での活動状況が見える。食堂に入居者が集まって談笑して過している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でゆっくり過ごしたい方もいれば、居室以外の様々な自由なスペースで気の合った方とくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で生活しているように遺影や位牌、家具等を持参している方もいるが、症状によって物があることで不安になる方もおり、居心地良く過ごせるよう配慮している。	畳の部屋が4室、フローリングの部屋が5室で、エアコン、洗面台、クローゼットが備え付けである。寄せ植えの鉢に水遣りし、楽しむ人やホームで取っている新聞を読む人等、自分の部屋として過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日付や場所を認識できるよう、手作りのカレンダーを設置したり、必要な箇所に貼り紙を貼っている。		